

## 不妊治療専門クリニックでの看護教育への取り組み ～教育プログラムの見直しとクリニカルラダーの作成～

医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック  
○澤辺 麻衣子

### I. 緒言

当院の看護部は中途採用が大半を占め、入職者の背景は様々である。不妊治療実施施設での経験者は極めて少ない。今回、看護教育の支援体制を整える為にスタッフへの調査を行い、教育体制の見直しを図り 3 か年計画を実践したので報告する。

### II. 実践内容

2011 年 1 月看護部スタッフ 21 名に選択・記述式の無記名アンケート調査を実施した。また、関連学会にて発表することの同意を得て倫理的配慮を行った。その調査結果と日本看護協会のキャリア開発ラダー、当院での教育内容を比較・検討し、スタッフへ結果の開示を行った。2011 年 3 月にクリカルラダーの作成、4 月よりクリニカルラダーの使用を開始した。また、スタッフからの要望があった学習内容を収集し、3 年間で基本学習内容が終了するように、月に 1 回の勉強会を担当制とし定例化し、教育プログラムの見直しを行った。

### III. 結果

入職時の平均年齢は 30.9 歳で外科・内科病棟経験者が殆どであった。産婦人科経験者は 21 名中 2 名のみであった。「教育体制は整えるべきか」の問いに対し 21 名中 17 名が「はい」と回答した。「何かから勉強したら良いか分からなかった」等の意見も記載されていた。「今までの教育で混乱した場面はあったか」の問いに対し 21 名中 12 名が「はい」と答え「業務を覚えるのに必死で、ホルモン動態や不妊症とはどのようなものなのか分からず説明していた」との現状も明らかになった。少なくともスタッフの半数が教育体制の見直しが必要と感じていた。また、勉強会を定例化、担当制とし実施することで「不妊症看護」を習得する機会となった。

### IV. 考察

アンケート調査を看護部内にて開示することで看護部全体に「教育体制の見直しが必要」である動機付けを行えたのではないかと考える。入職者の背景は様々であり、教育に対する期待や要望も多種多様である。過去の看護教育の中で「不妊症患者への看護」の教育を受けていないスタッフが殆どであり、知識がなく混乱したまま業務や患者対応を実施していた可能性が示唆された。不妊治療を中心とする職場では規模に関わらず、新入職者への教育支援体制を整える事の重要性が理解できた。また勉強会の定例化にて知識も含めた指導・助言ができるようになりスタッフ一人ひとりの能力の向上につながったのではないかと考える。

### V. 今後の課題

3 年が経過した為、再度現在の状態を把握するためのアンケート調査を実施し評価をする必要がある。個々に能力を開発、維持・向上し、自らキャリアを形成できるよう、今後も教育体制の評価・改正を行い、質の高い看護を提供していきたい。